

東川町

山下 祐太

1. 東川町の概要

1.1 地名の由来

「東川町」という地名は、忠別川のアイヌ語名「チュプペツ」(日の出る川)を意識してつけたものである。

1.2 歴史

明治 30 年、旭川村より分轄し東川村を置き、旭川外三村戸長役場の管轄になった。明治 32 年、東旭川村とともに東川村外一村戸長役場を設置した。明治 39 年、二級町村制を施行し、東旭川村、東川村組合役場を設置した。大正 8 年、一級町村制を施行し、村名を東川村とした。昭和 34 年、町制施行で「東川町」になった。

1.3 気候

東川町は上川の内陸盆地に位置するため、夏期で 30 度、冬期で-20 度を記録することもあるほど寒暖の差がはっきりしてはいるが、比較的冷涼で住みやすい環境である。

1.4 地理

東川町は、北海道のほぼ中央に位置し、総面積 247.06km²で、東西 36.1km、南北 8.2km ある。また、東川町は東経 142 度 54 分から 142 度 28 分、北緯 43 度 36 分 から 43 度 45 分に位置し、東部は山岳地帯で大規模な森林地域を形成し、日本最大の自然公園「大雪山国立公園」区域の一部となっている。北海道の峰といわれる大雪山連峰の最高峰旭岳(2,290m)は、東川町域に所在し、豊富な森林資源と、優れた自然の景観は、観光資源として高く評価されている。大雪山国立公園(面積 23 万 0.894ha)は昭和 9 年(1934)12 月 4 日に指定を受けており、そのうち東川町域はおおむね 1 万 0.432ha である。道北の中核都市旭川市の中心部から 13km(車で約 15 分)、旭川空港から 7km(車で約 8 分)の地点に位置している町である。

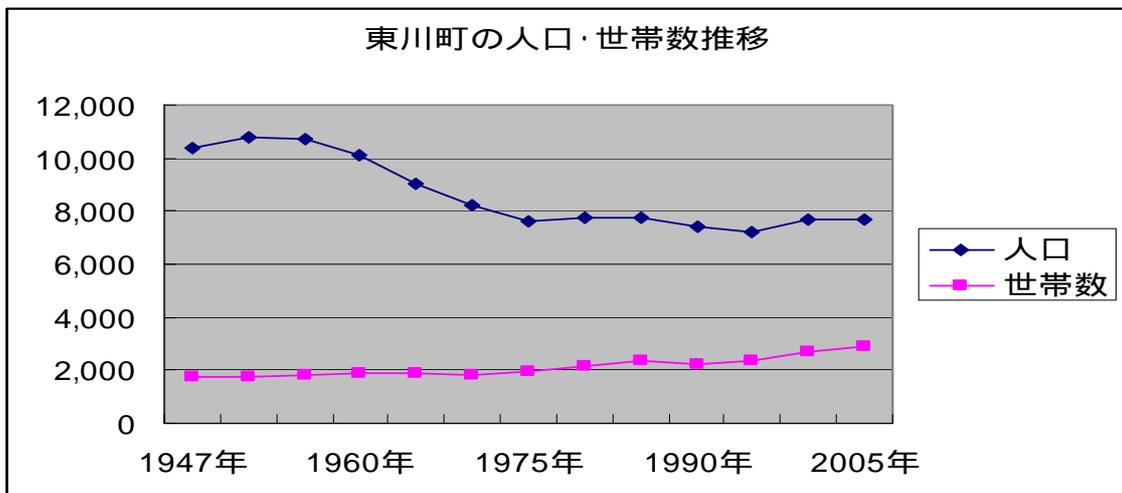
図3 上川支庁における東川町の位置



出典：上川支庁 HP

1.5 人口・世帯数

現在の東川町は、人口 7,701 人、世帯数 2,927 世帯となっている。(2005 年度国勢調査)東川町の人口は 1950 年の 10,754 人をピークに減少傾向にあった。これは、若者を中心とする人々が都市に流出したり、少子高齢化が進んだりしたためだと考えられる。しかし、1970 年ごろからは現状を維持している。また、世帯数は調査以降、増加傾向であり、2005 年度の調査では過去最高であった。これは、東川町が行っているマイホーム建築支援事業などの政策によって、移住してくる人が増えたからだと考えられる。

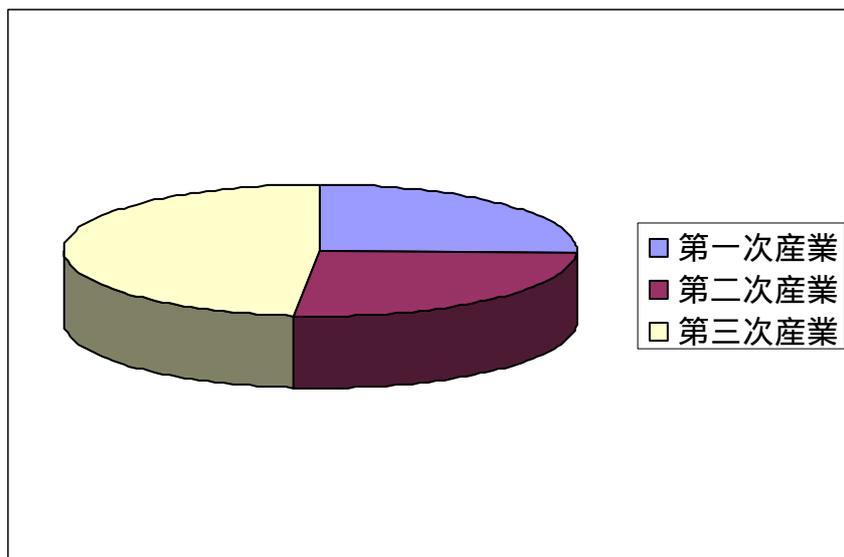


2. 東川町の産業

2.1 産業別人口

東川町では第一次産業就業者数が 1,082 人、第二次産業就業者数が 1,070 人、第三次産業就業者数が 2,015 人となっている。また、就業人口における農業就業者割合は 24.1%で、これは就業人口における第一次産業就業者数割合とほぼ一致するのである。つまり、第一次産業就業者のほとんどが農業就業者であるということである。これは、東川町が稲作に適した地帯であり、昔から農業が中心だったためだと考えられる。また、第三次産業においては、東川町は温泉など観光に力を入れているために多いものと考えられる。(グラフ 1 参照) さらに、近年は木工業・食品加工業が隣接する旭川市から移ってきている。これは、広い敷地や豊富な水資源が東川町にはたくさんあるからであると考えられる。

グラフ 1 東川町における産業別人口割合

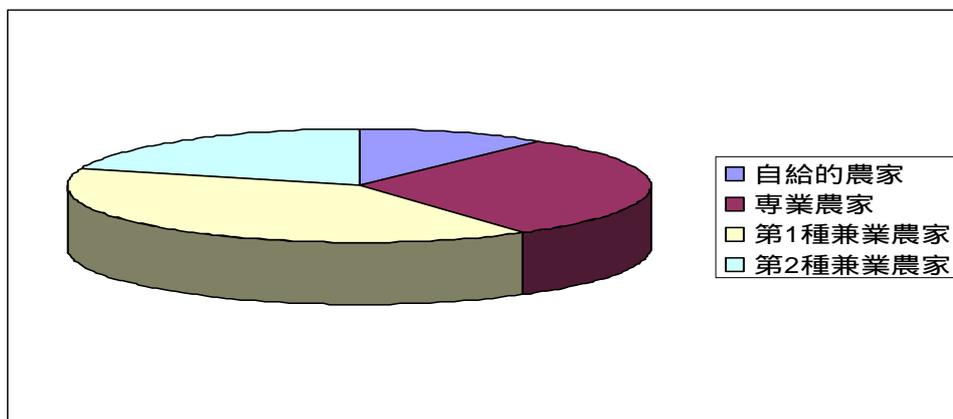


2.2 農業

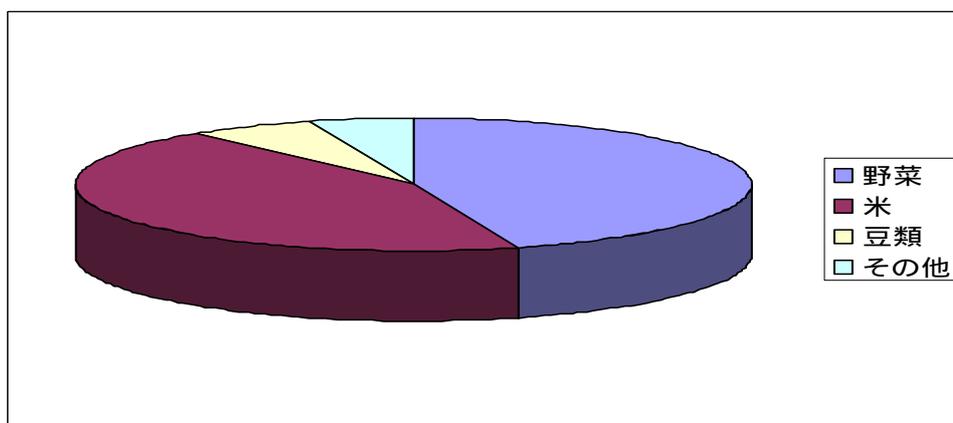
東川町では農家数が 581 戸、農業人口は 1,990 人となっている。そのうち自給的農家が 62 戸、専業農家が 174 戸、第一種兼業農家が 228 戸、第二種兼業農家が 117 戸となっている。(グラフ 2 参照) そして、近年では、農家人口は減少傾向にある。これは、町にいる若者が都市に流出してしまい、後継ぎが不足してしまうということが原因の一翼を担っていると考えられる。また、農業産出額の内訳は、全出荷額に対して、大根・にんじん・キャベツ・ねぎ・ばれいしょなどの野菜が 45%、お米が 44%、大豆・小豆などの豆類が 6%、麦類・雑穀・花きなどをその他として 5%となっている。(グラフ 3 参照) また、耕地面積は 80%近くが田、次いで畑となっている。(グラフ 4 参照) これら数値からもわかるように、

東川町の主力農産物はお米であると考えられる。これは、東川町が稲作に適した地帯であり、昔から農業が中心だったためと考えられる。

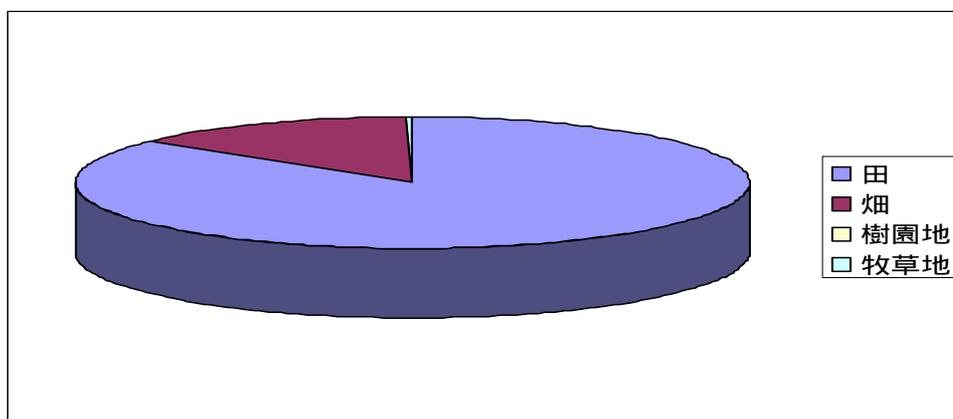
グラフ 2 東川町における農家内訳



グラフ 3 東川町における農業産出額内訳



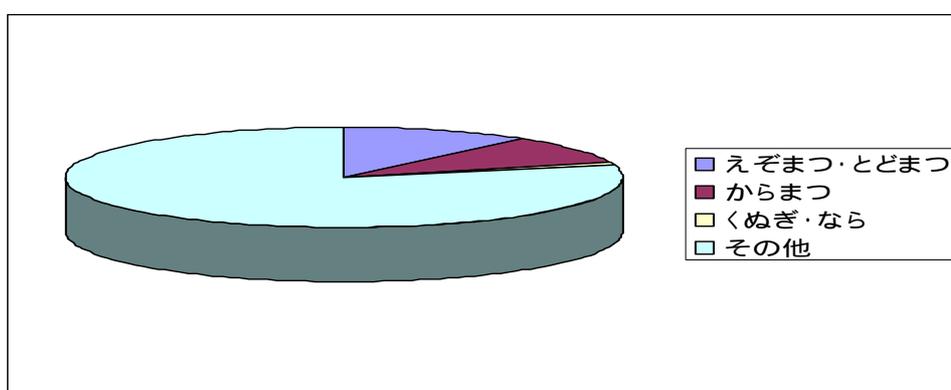
グラフ 4 東川町における耕地面積



2.3 林業

東川町では林家数は 222 戸となっている。総世帯数に占める林家数割合は 8.2%で、そのうち農家と林家を掛けもちしているのは 137 戸となっている。つまり、林家の 60%は農業も行っているのである。これには、林業だけあるいは農業だけでは生活できないという現状があると考えられる。樹林の内訳に関しては、人工林では、えどまつ・とどまつやからまつなどの針葉樹が 3641ha と多く、つづいて、くぬぎ・ならなどの広葉樹が 55ha となっている。一方、天然林では、針葉樹が 6,877ha、広葉樹が 6,152ha と同じぐらいとなっている。(グラフ 5 参照)

グラフ 5 東川町における樹林地の内訳



2.5 特産品

東川町には木製家具・木工クラフト製品、大雪清流物語(米・ぶどうワイン)、太陽の微笑(トマトジュース)、姿見寒酒・舞羽衣(東川米「きらら 397」で作ったオリジナルの日本酒)、大雪姫ワイン(東川町産の姫リンゴから生まれたワイン)など、さまざまな特産品がある。このような特産品は東川町の雄大な自然があってこそできるものなのである。

3. 東川町の観光

3.1 名所

東川町の名所といえば、天人峡温泉や旭岳温泉などがある。

天人峡温泉

天人峡温泉は東川町の市街から車で約 30 分のところの大雪山国立公園内にあり、大雪の山々の峡谷に広がる温泉地帯である。この地区には日本最大級の落差を誇る羽衣の滝や、東洋のナイアガラと呼ばれる敷島の滝が徒歩で見られる場所にあり、多くの旅行者の目を楽しませている。また、この地区には 4 つの温泉宿があり、どの温泉でも豊富な湯量と良質な泉質の温泉を楽しむことができる。

「羽衣の滝」



「敷島の滝」



旭岳温泉

旭岳温泉は大雪山連峰の主峰で、北海道一の高さ(2,290)を誇る旭岳の中腹にある温泉地帯である。旭岳ロープウェーが山の中腹まで通じており、気軽にトレッキングを楽しめるほか、登山者や大雪山を縦走する人々の基地となる旭岳ビジターセンターもあり、刻々と変わる山の情報を提供している。また、この地区には 8 つの温泉宿があり、どの宿でも温泉を楽しむことができる。

「姿見の池と旭岳」



3.2 イベント

東川町でのイベントといえば、写真甲子園・ひがしかわ氷まつりなどがある。

写真甲子園

全国の中から予選を勝ち抜いた 14 チームが、実際に東川町、美瑛町、上富良野町のフィールドで、決められたテーマのもと 3 ステージにわたり撮影を行ない、その腕を競い合う。ステージごとに行われる一般公開審査会では、一般の方も参加することができ、撮影した高校生の写真の説明、審査員の講評を聞くことができる。

「写真甲子園」



ひがしかわ氷まつり

東川町内の羽衣公園で開かれる冬のイベントである。会場内には大小多くの雪像のほか、世界的にも有名な東川氷土会の作成する氷彫刻が並び、幻想的な世界を作り出している。その他、餅つきや、親子で楽しめるゲームなど、催しも多彩である。

「ひがしかわ氷まつり」



参照 HP :

上川支庁 HP (<http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/index.htm>)

東川町 HP (<http://www.town.higashikawa.hokkaido.jp/>)

わがマチわがムラ (<http://www.toukei.maff.go.jp/shityoson/index.html>)

フリー百科事典「ウィキペディア(Wikipedia)

(<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%B1%E5%B7%9D%E7%94%BA>)